

SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) 2022 年度第 2 回分科会 (第 18 回ワークショップ) 開催

2022 年 7 月 29 日、SDG-UP 参加大学 23 校から 52 名が出席し、1) SDGs カリキュラム、2) 大学評価・アカウンタビリティ、3) 大学間等連携、4) マネジメント、の 4 つをテーマとして、2022 年度第 2 回分科会 (第 18 回ワークショップ) がオンラインで開催されました。各分科会とも前月の第 1 回分科会で確認されたトピックについて継続して議論するとともに、中間報告会での発表形態について話し合いました。各分科会の議論概要は次の通りです。

・SDGs カリキュラム分科会

昨年度開発したオンライン教材「国連 SDGs 入門」をサティフィケート・プログラム (修了証交付プログラム) として効果的に運用していくため、SDG-UP アカデミック・コンソーシアムを設置することとし、その経過報告が行われた。カリキュラム調整や修了証の認定などに関する仕組みについて議論するとともに、コンテンツ相互利用の規定については利用しやすさを心がけ手続きをシンプルにすることなどが話し合われた。実際に 2 大学がパイロット的に「国連 SDGs 入門」を授業で活用しており、そこでの経験をサティフィケート・プログラムの共同実施に向けて活かすこととしている。新規コンテンツの検討に関しては、国連などのデータベースを活用したデータサイエンスの授業を開発して現行のカリキュラムに部分的に組み込むといった案や、受講生同士の交流の場を構築する案などが議論されており、以上を中間報告会でも発表する予定。

・大学評価・アカウンタビリティ分科会

Times Higher Education (THE) インパクトランキング 2022 で世界第 10 位となった北海道大学より、実学重視とミッションへの忠実性という 1876 年創設時からの方針を実際の取り組みに反映しているという報告が行われた。現在、北海道大学では第 4 期中期目標で掲げている 6 つのビジョンに基づき、SDGs を前面に押し出しつつ課題解決の取り組みが進んでいる。上智大学 IR 推進室によって共有された今回のランキングにおける世界の大学の動向分析では、日本の大学の順位が全般的に上がり、得意な分野・不得意な分野が明確になったことなどが紹介された。また、国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) の山口しのぶ所長からは、THE 国際アドバイザリーボードに出席し、ランキング参加の際の問題点やその有用性などに関するアンケートへの回答を集約して SDG-UP 参加大学の意見として発表したところ、大変有意義だと高く評価されたことが報告された。本分科会では、同様のアンケートを発展させて再度実施し中間報告会で報告するほか、THE に対しても日本からの具体的な意見を提出したいとしている。

・大学間等連携分科会

大学の SDGs 関連の取り組みに関わる情報を集約してウェブサイトで国際的に発信するとして前回の分科会での議論を踏まえて、継続して意見交換を行った。産学官民・高大・小中連携、国際的な宗教ネットワーク、出版社の利用など様々な連携が考えられる中、期待される成果に即した出口戦略を考え、目的を明確にしたプロジェクトに取り組むことが議論された。各大学が取り組んでいる本質的課題とは何か、解決のための独自の切り込み方とは何か、そこにどのような特徴、有効性があるかを「見える化」するとともに、連携がしやすい分野を意識し SDGs の個別目標にこだわることなく多領域を網羅した内容にしたい、などの意見が共有された。発信内容としては学界や大学職員および学生の活動から発信に着手し、その後範囲を拡大していきたい。まず本年度は、発信プラットフォームの体裁作成に着手し、可能であれば情報収集を開始し、中長期的には連携に結び付けていきたい。

・マネジメント層分科会

今回の分科会では、野村證券の研究員を招き、「大学の SDGs ファイナンス活用に向けたエンゲージメントについて」と題して資金調達手段の多様化とその活用について講演していただいた。大学は組織としては極めて信頼性が高いという利点を活かし、多様なステークホルダーと良好な関係を構築し、学内外の強いエンゲージメント（一体感、共感、遠心力）を推進することが重要、との指摘があった。また、有効な資金調達のためには、大学内に事業財務担当役員（CFO）のポストを置き、財務戦略を構築することが望ましいとの意見も出された。中間報告会では、①大学の特色について（大学の一体感や地域性など）、②エンゲージメントについて（サイロ化による悪循環を脱し好循環に発展させ、資金調達に活かす）、③インパクトランキングについて（成功例として北海道大学取り組みを紹介）の3点を軸に発表する予定。さらに、大学の組織に SDGs を浸透させるには、学長のリーダーシップが大変重要であると提言したい旨が確認された。

総括として、SDG-UP アドバイザーである関西学院大学の村田俊一教授は、4つの分科会において、内容が充実し早いスピードで進行しているとして、各分科会での議論にコメントしました。「SDGs カリキュラム」については、昨年開発したオンライン教材の管理・運用を担当するコンソーシアムを立ち上げたことが組織的発展につながると述べた上で、修了証交付プログラムの単位や認定、コンテンツの相互利用に関するルール設定シンプルにするべく尽力し、質の高いカリキュラムを提供し続けたいと語りました。「大学評価・アカウントビリティ」に関し、インパクトランキングは、長期的な観点から各大学の強みと弱点を確認するための重要なツールであり、各大学の執行部の強力なコミットメントと支援が得られるような働きかけが重要であると述べました。「大学間等連携」については、ウェブ・プラットフォームを構築し多様なコンテンツの開発を行っていく中で、医学系分

野において SDGs をどのように関連づけて紹介するか、がこれから非常に脚光を浴びるポイントになるであろうと指摘しました。「マネジメント」については、野村証券の方を招聘し講演していただいたことは画期的であったと述べ、ファンドマネジメントの経験のある大学に経験をシェアしてもらうことが大切であると指摘しました。最後に村田教授は、今後は教員と学生あるいは学生同士が実際に会える機会も設け、ネットワークをより緊密なものにしていきたいと強調し、ワークショップを締めくくりました。

参加大学 23 校（アルファベット順）

広島大学

北海道大学

国際基督教大学

国際大学

金沢大学

慶應義塾大学

関西学院大学

奈良教育大学

ノートルダム清心女子大学

お茶の水女子大学

岡山大学

沖縄科学技術大学院大学

大阪医科薬科大学

大阪公立大学

大阪大学

龍谷大学

創価大学

上智大学

東海大学

東京都市大学

東京工業大学

東洋大学

北九州市立大学